

橋本けいいち 熱血通信

市政活動報告[2019 Vol.2]

〒981-3213
 仙台市泉区南中山3丁目16-19
 TEL (022) 773-3083
 FAX (022) 376-5232
 Email: hashihashi@nekketsu.net



皆さん、こんにちは。「平成」から「令和」に替わり、半年あまりが経過致しました。そのような中、10月に発生した台風19号など、各地域で甚大な被害が発生しました。私には休んでいる暇などありません。いつでもどこへでもすぐ参ります。これからも全力で取り組みます。議会活動をはじめ、日頃の活動の一端をご報告させていただきます。

身近な市政情報

1 スポパーク松森の次期事業について

スポパーク松森は松森工事のごみ焼却に伴って発生する余熱を活用し、市民が健康増進や交流などを図ることができるサービス提供を目的として、PFI方式により平成17年7月から営業開始し、令和2年4月末で契約が終了となります。令和2年5月以降の次期事業について、引き続き民間活力によって事業実施する為、選定委員会の評価・選定を経て、優先交渉権者が決まりました。

●次期事業の概要

- (1) 事業期間：令和2年5月から令和12年3月末まで(10年間)
- (2) 公募提案型賃貸方式

●優先交渉権者

杜の都スポーツ振興グループ
 (これまで同様、コナミスポーツ㈱を代表とした企業体です)

●以下のサービスが追加・変更されます(主なもの)

- (1) 開館時刻を午前10時から午前9時に変更(営業時間延長)
- (2) 喫茶スペースをキッズスペースに変更
- (3) プール、テニスコートの使用料を他施設と同等に設定
- (4) 月額利用料金の値上げ
- (5) 駐車場の一部有料化(施設利用者は4時間まで無料)

2 仙台市内特別養護老人ホームの入居申込状況について

(1) 入居申込者数 1,780人(前年比381人減) 令和元年3月現在

(2) 要介護度別内訳

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申込者数
H31.	112人	224人	486人	548人	410人	1,780人
4.1	6.3%	12.6%	27.3%	30.8%	23.0%	

(3) 現在の生活場所別内訳

	自宅	病院	介護老人施設	老人ホーム	その他	申込者数
H31.	663人	285人	500人	14人	318人	1,780人
4.1	37.2%	16.0%	28.1%	0.8%	17.4%	

3 消防NET119緊急通報システムの運用開始について

私がこれまで取り組んできた聴覚や言語機能に障害のある方が、スマートフォンや携帯電話のインターネット機能を利用し、素早く119番通報できる「NET119緊急通報システム」の運用を開始しました。

急通報システム」の運用を開始しました。

●システムの特徴

- (1) スマートフォン等の操作により、音声不要で119番通報可能
- (2) GPS位置情報や事前利用登録情報から、通報場所の特定

●利用対象

- (1) 仙台市居住で、聴覚や言語機能の障害による身体障害者手帳をお持ちの方
- (2) 事前利用登録が必要で、各消防署や区役所窓口配布で登録申請を行う

●運用開始

令和元年10月1日より

4 仙台市博物館の臨時休館について

受変電設備及び空調用冷温水循環ポンプ改修工事の為、令和元年12月28日(土)から令和2年3月31日(火)まで休館となります。お間違えのない様お願いします。

5 高齢者福祉施設等における救急ガイドブックの案内について

高齢者福祉施設等からの救急要請の増加に対応する為、迅速で的確な救急活動の実現に向け、施設内での対応を取りまとめた「救急ガイドブック」が作成されました。

●救急ガイドブックの主な特徴

- (1) 医療機関へスムーズに搬送する為、救急隊や医療機関へ提供する情報を予め記載できる「救急連絡シート」を掲載
- (2) 入所者の急病や転倒に起因する負傷が多いことから、施設内での予防法について掲載
- (3) 施設職員が不安がある中でも、確実な行動が取れるよう、救急要請時の対応と心肺蘇生法の手順を掲載

●ガイドブックに関する問合せ先

仙台市消防局警防部救急課救急管理係
 電話022-234-1111 内線2330

6 提案型施設命名権者募集について

仙台市では平成18年から施設命名権(ネーミングライツ)の導入に取り組んでおり、現在(令和元年11月現

橋本けいいちプロフィール

- 仙台市議会 スポーツ振興調査特別委員会 委員長
- 仙台市 国民健康保険運営協議会 副会長
- 仙台市 地域包括支援センター運営委員会 委員
- 仙台市 食品衛生協会 顧問
- 宮城県 トライアスロン協会 顧問
- 昭和41年仙台市泉区生まれ

- 仙台市議会 都市整備建設常任委員会 委員
- 仙台市 介護保険審議会 委員
- 仙台市 薬剤師会 顧問
- 仙台市 廃棄物対策審議会 委員
- 仙台市 早起き野球協会 顧問
- 宮城県仙台第三高等学校卒
- 東北学院大学法学部卒

在)、仙台ユアテックスタジアムなど全9施設に導入しております。厳しい財政状況の中、新たな収入を確保して施設の管理運営などの為に有効に活用するとともに、民間事業者による企業のPRや地域貢献していただく観点から、本取り組みを推進して、令和2年度も新たにネーミングライツを募集します。

●募集施設

- (1) スポーツ施設、文化施設、公園など市民利用施設全般が対象です
- (2) 市役所庁舎をはじめとする公用施設や学校、保育所は除きます

●命名権料

八木山動物公園	年間500万円以上
上記以外の施設(仙台市武道館、仙台市青葉体育館、仙台市内温水プール等)	年間100万円以上

●契約期間

3年以上

●募集期間

令和元年11月21日から令和2年1月20日まで

※令和2年2月下旬までに優先交渉者及び施設名称案の決定がなされ、3月下旬には契約締結ののち、4月から新施設名称の運用が開始されます。楽しみにお待ちしております。

7 仙台市学校給食費の改定について

教育委員会から出されていた適正な学校給食費に関する諮問に対して、仙台市学校給食運営審議会から、学校給食費を改定することが適当との答申が行われました。

●答申内容

「栄養量の改善」「食育の充実」「保護者負担への配慮」の観点から、栄養量や献立内容を改善し、適切な提供を行う為、令和2年4月から学校給食費を改定することが必要との結論に至る。

	炊飯方式	現行給食費	改定学	改定後給食費
小学校	委託炊飯	245円	45円	290円
	自校炊飯	239円	51円	
中学校	委託炊飯	290円	55円	345円
	自校炊飯	285円	60円	

●主な審議内容

- 食材価格の上昇により栄養量が低下し、学校給食摂取基準を充足しない栄養素が増えている状況の改善
- 摂取基準を充足し、地場産物の利用等による食育の充実を図る
- ※令和2年仙台市議会第1回定例会予算案の審議(令和2年2月～3月中旬)がなされた後、給食費の額を定める規則の改正が行われ、4月に給食費の改定が行われる見込みとなります。

仙台市議会 令和元年第3回定例会決算・一般会計補正予算等審査特別委員会質疑・答弁

消防局関連事業等について

橋本の質疑 仙台市総合防災情報システム及び総合的消防力整備事業費内訳を伺う。

答弁 総合防災情報システムについて運用、更新合わせ、平成30年度が24億5千万円余、総合的消防力整備は車両及び庁舎施設等整備として平成30年度8億5千万円余です。

119番多言語サービスの利用に関連して

橋本の質疑 今年4月から開始した「119番通報多言語サービス」について、東京オリ・パラ開催が迫る中、これまでの利用状況とその認識について。

答弁 運用されている三者間通訳サービスは、4月から9月末までの半年間で119番通報が6件、災害現場で9件の利用実績となっています。外国の方が119番通報しやすくなったこと、円滑にコミュニケーションができるなど高い効果があったと認識している。

救急電話相談#7119について

橋本の質疑 現在運用中の救急電話相談#7119の運用実績と評価を伺う。

答弁 平成30年度の#7119の運用実績について、県全体で15,761件、本市分は10,713件であり、このうち救急要請に至ったものは約1割であり、救急出場の抑制などの対策に一定の効果があり、市民への安心情報提供に効果があった。

橋本の質疑 #7119が大変繋がりにくいといった声が寄せられているが、救急需要対策の観点から消防局として県や関連部局に改善を申し入れるべき。

答弁 回線が塞がれていた場合、利用者の不安や救急車の適正利用に影響が生じるものとする。本事業の質

の向上が図られるよう、関係部局と連携し県へ申し入れを行っていく。

橋本の質疑 救急需要対策に有効な#7119の認知度向上の為に更なる啓発が必要だが。

答弁 これまで、救急車要請マニュアルへの掲載や救急講習実施時等にチラシを配布し、医療機関へはポスター掲示依頼を行っている。今年度からは、医療機関設置の電子掲示板による広報も実施した。今後も様々な手段を用いていく。

救急需要対策について

橋本の質疑 本市の人口は令和2年頃をピークに、緩やかに減少していくと見込まれるが、一方で高齢人口の割合は上昇していく。今後の救急需要について、どのような予測をしているか。

答弁 救急出場件数は2020年に5万2千件、2035年には6万件と推計しているが、2018年の時点で既に5万2千件を超えている。本市の推計をはるかに上回るものと予測している。

橋本の質疑 近年の救急搬送件数のうち高齢者の占める割合と将来予測をどう見ているか。

答弁 平成27年に50%を超え、平成28年は51.9%、29年は53.5%、30年は54.1%と推移しており、こうした傾向は今後も続くと考えられる。

橋本の質疑 年々増加している高齢者福祉施設からの救急要請の件数は。

答弁 平成20年の約1400人に対し、平成30年では約3500人を搬送しており、10年間で約2.5倍に増加している。

橋本の質疑 高齢者福祉施設向けに作成された「救急ガイドブック」をしっかりと浸透させることが重要だが、今後の周知啓発手法を伺う。

答弁 施設に直接趣き説明した上で順次配布を進めるとともに、仙台市老人福祉協議会の協力を得、関係者が一堂に会する機会を捉え、効率的な周知に努めている。説明の際、作成に至った経緯や活用した場合のメリットについても説明している。

橋本の質疑 今年、月間ベースの救急出場件数が過去最多を記録したとの事だが、熱中症の搬送人数、増大する今後の対応を確認したい。

答弁 今年8月の救急出場件数は過去最多の5,220件となったが、熱中症による搬送も過去最高の336件となった。急激な増大に対応する為、常時運用の26隊の救急隊に加え、各消防署に配置する7台の予備救急車を活用した臨時救急隊を編成し、対応を図っている。今後とも柔軟かつ効率的な編成を行うなど、万全の対策を検討する。

DNARの認識と現状について

橋本の質疑 DNAR(心肺停止になった時に、二次心肺蘇生措置を行わない事)といった新たな概念についての認識と現状について伺う。

答弁 ご家族からDNARの意志を示された場合でも、原則蘇生処置を継続しながら搬送することとしている。しかし家族や医師から了承が得られない場合など、家族と医師に蘇生を拒否する旨の記載及び署名をしていただき、蘇生中止し搬送する。こういった事案については平成29年が16件、平成30年が17件となっている。

全国救急隊員シンポジウムについて

橋本の質疑 本市において「全国救急隊員シンポジウム」開催にあたり、このイベントを通して救急需要対策を全国に積極的に発信すべきだが、その取り組みを伺う。

答弁 来年1月に本市で開催されるシンポジウムは全国から救急隊員をはじめ医療関係者約7000人以上が参画する予定である。全国的な課題に対する議論がなされることになる。未来を見据えた救急業務の充実と発展に寄与し、体制強化に向けて取り組みたい。

(仮称)中心部救急出張所の整備について

橋本の質疑 (仮称)中心部救急出張所整備の進捗状況について伺う。

答弁 平成31年4月から着工しているが、当初の予定より1ヵ月ほど長く工期が必要となり、令和2年3月10日で工期を延長している。高架下での工事の為、一般的な工事に比べ難しい面もあるが、工法の見直しなどにより工期短縮に努め、令和2年4月1日開所に向け作業を着実に進める。

総合的消防力整備事業の評価検証について

橋本の質疑 「総合的な消防力の整備」についてどのような評価と検証が行われたか。

答弁 「整備方針2016」に基づき、庁舎整備、消防署の適正配置、消防車両や装備の充実強化を図ってきた。具体には消防航空隊活動拠点の再整備や六郷分署の立ち上げ、(仮称)中心部救急出張所の建設を進めている。

今後の消防力の強化について

橋本の質疑 消防を取り巻く環境変化を踏まえ、一層の消防力強化を進めるべきと考えるが、所見を伺う。

答弁 将来の需要予測に基づき、計画的・総合的に整備を進めることが重要であり、10年程度の需要予測とともに必要な整備など、基本的な整備方針を定めていきたい。

橋本の質疑 総合的消防力整備事業については実施計画の中をしっかり位置づけるべきと考えるが。

答弁 現在の実務計画では各事業を個別に掲載する形をとっているが、次期計画策定の際には内容の充実も図りながら、ご指摘を踏まえ分かりやすくお示しできるように進めて参りたい。

宮城県防災ヘリコプター2機体制について

橋本の質疑 県と本市の消防防災ヘリの運航に係る相互補完体制を確認する。また定期的な法定点検などにより、運航できない期間について県と市の実績を伺う。

答弁 通常、夜間の対応について県市の間で締結している覚書により、隔日交代で待機する態勢を、また法定点検や災害出動で対応できない場合においては、相互に補完することとしている。平成30年度における点検等により運航できなかった期間の実績は、仙台市が1機平均184日、県は平均133日である。

橋本の質疑 本市では2機の為、調整が可能だが県は1機体制の為長期間にわたり、本市ヘリが補完することになり、相互補完ではなく、片務的な体制となっているのではないかと、伺う。

答弁 県市相互が補完しあう関係が構築され、県内全域の安全安心の為、機動的救助活動が行われている。しかし本市では点検整備等で使用できるヘリがない空白期間を無くす目的で2機目を導入して以降、本市側が補完する頻度が高くなっていることは事実である。こういった補完頻度が高くなっていることは本市ヘリ導入時に、県から補助金を受けていることや、県ヘリの運航不能時の補完として負担金を受けていることなどから、本市として費用負担を受けている認識がある。

橋本の質疑 本来、本市が補完しなくても済むよう県に対して2機目の導入を求めるべきと以前も質疑を行ったはずだが、その後に県に対する要望は行っていないのか。

答弁 本年5月に県に対して防災ヘリコプター2機目導入を本市議会での意見として伝えるとともに、県の考え方、方向性について伺ってきた。県は安全性向上の為「常時2人操縦士体制」への対応を優先させているとのこと。

橋本の質疑 県も防災ヘリをしっかり1機追加配備することにより空白期間を無くす努力をした上で、災害が広域的に発生した場合など、相互に補完し対応する体制こそ必要である。県に継続的に要請することについて



台風19号に伴い発生した被害現場を視察し、早期の復旧を行政に要請しました。

て、どう認識しているか。

【答弁】本市としても、大規模かつ広域的な災害への迅速な対応について、更に平常時においても県全体の災害

対応力向上についても有用であると考えており、引き続き県に対して2機目の県防災ヘリコプター導入を検討するよう働きかけて参りたい。

仙台市議会 令和元年11月都市整備建設常任委員会質疑

宮城県が進める水道事業への「みやぎ型管理運営方式」導入に対し、十分な情報公開と熟議を求める意見書提出に関する件について、関係する確認と質疑が行われました。

【橋本の質疑】「みやぎ型管理運営方式」に関して、これまで経費200億円削減の情報や業者選定基準、県民間資金活用事業検討会議からの答申などが出されているが、仙台市をはじめとする17市町からなる「受水団体連絡会」から出された様々な懸案事項について県に意見が反映されているのか。

【答弁】会議が非公開であるが、水の安定供給に向けた民間事業者の運営実績やリスク分散など選定基準を重視する内容となっていることから、受水団体からの項目が一部反映されたものと考えている。

【橋本の質疑】受水団体連絡会としてだけでなく本市も独自に確認を行っているのか。又、基本的に4点について県に要望しているが、この項目について県からの回答はあったのか。

【答弁】本市単独ではなく、団体として本市が回答を求めており、詳細については、まだ示されておりません。

【橋本の質疑】市議会も県に対し懸案事項について、はっきり申し上げてきた。今後ももっとスピーディーに回答と情報を求めるべきと考える。4項目である県における事業者モニタリング機能の確保と、災害時の迅速な対応、事業者撤退時の円滑な事業継続、そしてコスト削減効果の料金への反映がある。そういったことは明確に示されることが事業の具体的実現に繋がるのでは。

【答弁】実現される為の根拠を明確に示すように求めている所です。現時点で明らかになっていない項目と、できるだけ早期に示すことが市民県民の不安の解消に繋がるという認識のもと、引き続き求めていく。

質問内容と答弁の詳細については、仙台市議会のホームページからもご覧いただけます。

仙台市議会ホームページアドレス

<http://www.gikai.city.sendai.jp>

活動レポート



2019年9月
「第58回仙台市民健康ウォーク・ラジオ体操」がたくさん参加者のもと早朝より開催され、私も参加致しました。泉区内のスポーツ関係団体(学区民体育振興会、スポーツ協会、スポーツ推進委員等)が、区民の健康増進、地域間交流の為に開催しているものです。中でもこの大会は区内の各学区ごとに会場(シェルコム仙台)までウォーキングし、一堂に会してラジオ体操の基礎を学ぶことができ、こういった健康増進の為にきっかけづくりを更に充実させていきたいと思っています。



2019年9月
地域町内会の防災訓練に参加しました。まず地域の公園に集合し、避難所に向け集団で行動するなど、一つ一つの確認の連続です。近年の少子高齢化による参加者の高齢化対策が課題となっています。要介護者としての高齢者の情報や自主防災組織と民生委員との連携、安否確認の方法など、多くの議論が行われています。



2019年10月
仙台経済同友会の役職者の方々との意見交換会を開催致しました。「消費税10%引き上げ」に関する事業者への影響をはじめ、東京オリンピック・パラリンピックからの本市のインバウンドの取り組み、県と市にまたがる「青葉ホール建設」や「宿泊税」に関する多くの提言や質問をいただくなど、積極的な連携協力の重要性を認識したものです。市議会からも協力要請と疑問・課題を申し上げる事ができました。



2019年10月
「令和元年度仙台市泉区総合防災訓練」が高森東小学校校舎と体育館を会場に開催されました。単位町内会の役割分担と多くの小学生・中学生の協力のもとで、「自分が今何をすべき」を確認しながら、本番さながらの訓練が行われました。現在、地域防災マニュアルはありますが、地域ごとの実情にあわせたものが必要であり、万全の備えが災害対応力向上に必ず活かされると信じています。



2019年10月
平成27年度から進めてきた「古屋敷橋」(加茂ゴルフ場前)の整備が完了し、令和元年10月26日に開通致しました。これまでの橋は設置から50年以上が経過し、老朽化と幅が4mしかなく、歩道も設置されていませんでした。皆様からのご要望をいただき、新古屋敷橋は片側1車線で歩道も設置されました。開通前に協力いただいた地権者や近隣の方々に事前に現場を説明する事ができました。



2019年11月
都市ガスの利便性、快適性、環境情報などガスの有用性、魅力を広く知っていただくことを目的に、今年も「仙台ガスフェア」が開催されました。近年のガス事業を取り巻く情勢において、都市ガスの小売全面自由化を契機に、ガス事業の新規参入や異業種の相互参入など厳しい経営環境の中にあります。また、仙台市ガス事業の民営化は待たなしの状況にもあります。今後の安定期供給の取組み等意見交換ができました。



2019年11月
都市建設常任委員会において「四国中央市の官民連携による新浄水場の安全対策」について視察を行いました。現在、四国中央市水道局では水道水の安全性をより一層高める為、安全計画ガイドラインと水道ビジョンからなる水安全計画をもとに水源から給水栓までの総合的水管理を行っています。本市もこれらを参考に、安全性の向上と信頼性の確保等に努めて参ります。



2019年11月
被災した沿岸部に整備が進められてきた、かさ上げ道路「東部復興道路」が全線開通しました。総延長10.2kmとなり約6mの盛り土によって、堤防機能を持ち仙台東部道路等とともに多重防御の役割を果たすこととなります。多くの方々の協力のもと完成し、一区切りを迎えたが、復興のシンボルとしてだけでなく、これまでの教訓を風化させない為のものとして、これからも更に防災の備えを進める必要性を持ちました。

皆様のご意見ご要望等どしどしお聞かせ下さい。お待ちしております。

TEL(022)773-3083 FAX(022)376-5232 Eメール: hashihashi@nekketsu.net

